

家の光



地域情報版

郷土芸能
究めるのは
高校生

難民の六つの物語
シリアの食卓
検証 農協改革
改革は
自らの手で

〈特集〉

土から 生まれる

ショウガパワーで
冬の不調にさよなら!

春よ来い!
花と野菜の種プレゼント

広島の思い出
戸田菜穂さん

ふるさと見聞録

LET'S ENJOY!
レツ・エンジョイ!



雪を克服し、 雪に学ぶ国

豪 雪地帯とは、大量の積雪が産業や生活の妨げになっている、と政府が指定した地域。その面積は日本の国土の半分を占め、約二千万人がそこに暮らしています。そして、この地域では人口減少と高齢化が、全国平均を上回るペースで進行中です。

毎年、雪の事故（交通事故や山岳遭難を除く）で百人近くが犠牲になっていますが、その最大の原因は過疎化と高齢化。高齢者が一人で屋根の雪下ろし作業中に転落し……、といったケ

ースが後を絶ちません。

また、ワインタースポーツの人気が陰り、スキー・スノーボード人口は一九九

八年の千八百万人から、十五年で半分以下に。雪国は寂しくなるいっぽうと思われがち。ところがどっこい、

雪そのものを生かして、地域に元気を取り戻す活動が各地で始まっています。二〇一五年のこと。メンバーや、県内の磐梯町から派遣されていた三十代の役場職員と、地元出身で海外でも活躍した三十代の景観デザイナー、東京から移住した二十代の女性イラストレー

除雪は運動だよ



上／雪の中でもジョセササイズで汗をかく参加者
下／協会のホームページでは、正しい除雪方法を指南



津南町の特産である「雪下にんじん」は、3～4月に収穫。JA津南町の生産部会が产地化を主導してきた

ーターなど若手が中心です。ジョセササイズとは、除雪とエクササイズ（健康増進運動）を合わせた造語。雪国の宿命とされる重労働を、楽しい運動に変えてしまおうという発想です。除雪作業を魅力的に描いたイラストや、インストラクターのライセンス発行など、遊び感覚がインターネットを通じて若者の共感を呼び、女子大生や企業の除雪ボランティアを集めました。

除雪作業のほか、雪の下で越冬させる「雪下野菜」の収穫体験などもあり、連の企画を通じてリピーターが生まれています。民泊を受け入れた地域の

雪がクリーンエネルギーに

人からは、「またボランティアに来てほしい」と声が上がっているとか。西会津町のファンと住人のきずなは、着実に強まっていきます。

雪の多い魚沼市への進出を決定。新工場には「雪室」倉庫を設置し、低温・高温度下で力カ豆を熟成させ、品質向上につなげます。この「雪室」こそ、雪国に古くから伝わる知恵。他地域でも、米、日本酒、シタケ、コーヒー豆の雪冷蔵品を商品化しています。

いま県内で熱い視線を集めているのは、データセンターにおける雪冷熱利用。コンピューターが発する熱

雪に触れて学ぶ

最深積雪二百三十六センチの記録がある山形県新庄市で、雪のない八月に実施した「真夏の親子雪体験バ

スツアー」。

この体験ツアーは、やま

がたゆきみらい推進機構が

〇八年から開催しているも

の。参加した小学生は「雪

を見てキラキラしたときは

びっくりした」「雪が降ら

ないほうが楽でいいと思つ

ていたが、害虫被害や水不足の原因になることを知つ

て、雪が降らないのも問題

だったんだと思った」など

の感想を寄せていました。

豪雪地帯に多くの人が住み、雪を克服し、雪を利用しながら高度な生活文化を育んできた日本。世界でも有数の「克雪」と「利雪」の知恵があります。この伝統を引き継ぎ発展させるには、雪から学ぶ「学雪」が欠かせないようです。



上／新庄雪氷環境実験所では、真夏でも凍えるような寒さを体験できる。下／JA新庄市ゆきむろ倉庫では、雪室貯蔵米「はえぬき」を保管する

小学生と保護者の計約十人が、次の三ヵ所を訪問しました。千トンの雪でブランケット米を貯蔵するJA新庄市の「ゆきむろ倉庫」、雪害救済運動に取り組んだ政治家・松岡俊三の功績を伝える「雪の里情報館」、氷点下一〇度や風速十メートルの吹雪を体験できる「雪水環境実験所」です。

この体験ツアーは、やまがたゆきみらい推進機構が

〇八年から開催しているもの。参加した小学生は「雪を見てキラキラしたときはびっくりした」「雪が降らないほうが楽でいいと思つ

ていたが、害虫被害や水不足の原因になることを知つ

て、雪が降らないのも問題

だったんだと思った」など

の感想を寄せていました。

豪雪地帯に多くの人が住み、雪を克服し、雪を利用しながら高度な生活文化を育んできた日本。世界でも有数の「克雪」と「利雪」の知恵があります。この伝統を引き継ぎ発展させるには、雪から学ぶ「学雪」が欠かせないようです。